

一般財団法人京都ボーイスカウト振興会
平成 28 年度（平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日）
事業報告

1. はじめに

当事業年度は、京都連盟創立 100 周年と、世界から 3 万のスカウトが集った第 23 回世界スカウトジャンボリーの翌年にあたり、「ボーイスカウト」が一般社会にどれだけ認知されているか、そのバロメータとして加盟員数が減少から増加に転換できるか、を目指して事業を進めてきました。

ボーイスカウト運動の振興及び普及宣伝事業として、NPO 法人グローバル人材開発センターに委託した、大学生のボーイスカウト認知度調査は「スカウトミライプロジェクト」として大学生 4 人の熱意ある取り組みによって「提言」にまとめられました。

この発表と今後の展開について、平成 29 年 3 月 19 日にワークショップを開催し、さまざまなアイデアが寄せられました。これは全国的にも画期的な調査・分析であり、日本連盟やガールスカウト京都連盟からも注目されました。

この調査から、スカウト運動について知らない人は多いが、その目的や方法に賛同する人が多いことも、明らかになりました。この運動が『国際的な広がりのある、グローバルな地域の教育力』であることを再認識し、本会維持会員の皆様のご支援という期待に応えていくためにも、次年度は、「提言」から具体的な事業展開へと結びつけなければなりません。

指導者養成のためのプログラム企画運営事業においては、平成 29 年 1 月 8 日に「京都スカウト活動報告会」を京都テルサ大会議室で開催し、61 名の参加がありました。「国際交流」ではオーストラリア短期留学、台湾・韓国・日本の合同プロジェクト、韓国京畿南部連盟との姉妹提携について、また野外活動の目標である「長期キャンプ」の実例として昨夏のサマーキャンプについて報告されました。

また当該会計年度は、維持会費収入が 2,492 千円と前年度比+42 千円となりました。

2. 事業報告の内容

(1) ボーイスカウト行事等に対する助成協力

(ア) 助成の対象

京都府下において、ボーイスカウト運動の趣旨を理解し、組織的にボーイスカウト運動を行う団体として、京都連盟を助成対象とした。

(イ) 助成の趣旨・使途

ボーイスカウト運動にかかる講習・実修・研修・キャンプに要する経費、世界スカウトジャンボリー・日本ジャンボリー・京都ジャンボリー及びベンチャースカウト大会へのスカウト派遣に要する経費、その他ボーイスカウト運動に欠くことができない重要な行事のために必要となる経費

(ウ) 事業実績

事業費として、総額 1,300 千円を支出した。京都連盟の進歩費、国際費、安全費、環境費、コミッショナー費、イベント費、ボーイスカウト講習会及びウッドバッジ研修所運営費等に必要となる事業費の一部に対して助成した。

(エ)

(参考) ボーイスカウト講習会の実施状況

名称	第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回	第 5 回	第 6 回
期日	4 月 24 日	6 月 19 日	9 月 25 日	11 月 27 日	3 月 5 日	2 月 5 日
会場	円光寺	宇治市 中央公民館	本門佛立宗 本山宥清寺	舞鶴市 由良川学園	上一乗寺 集会場	豊園会館
参加者	26 名	33 名	18 名	11 名	27 名	10 名

(参考) ウッドバッジ研修所等の実施状況

名称	WB 研修所 CS 京都第 37 期	WB 研修所 B S 京都第 35 期	第 1 回 安全セミナー	第 2 回 安全セミナー
期間	5 月 3-5 日	10 月 8-10 日	6 月 5 日	2 月 26 日
会場	京都市野外活動 施設 花背山の家	京都市野外活動 施設 花背山の家	京都連盟会議室	京都連盟会議室
参加者	16 名	16 名	13 名	16 名

(2) 青少年の育成を目的とした自然体験活動のためのキャンプ企画事業

(ア) 体験活動の所在地

広河原野営場：京都市左京区広河原尾花町 27 番地

(当法人所有：山林 22,559 平方メートル、原野 521 平方メートル)

(イ) 体験活動の運営主体

京都連盟

(ウ) 体験活動に参加が予定されている対象者

青少年の育成を目的とした組織団体に無償提供する。

(エ) 体験活動に参加した対象者、使用月日、使用人数等

使用者	使用月日	使用人数	備考
1. 山開き	4 月 2 日 - 3 日	10 人	サポート委員会
2. 野営場整備	7 月 16 日 - 17 日	26 人	サポート委員会
3. 京都連盟	7 月 2 日-3 日	20 人	サマーキャンプ事前訓練

4. 冬ごもり	12月3日 - 4日	10人	サポート委員会
5. 京都第38団	8月11-15日	15人	B S 隊
6. 京都第92団	2月12日	20人	C S 隊
7. 京都第38団	2月12日	15人	B S 隊
合 計	15日	116人	

(オ) 事業実績

広河原野営場建物の減価償却費 80,730 円・固定資産税 4,300 円が主な費用実績である。

(カ) 広河原野営場近隣における舎営施設土地建物の取得又は賃借について

利用状況はかばかしくなく、当面見合わせる。

(3) 指導者養成のためのプログラム企画運営事業

(ア) 趣旨

青少年の育成を指導する人としての素養を涵養するために、企業人、教育者等の有識者を講師に迎え、オープンに一般の参加者も迎え、セミナー等を実施するものである。

(イ) 事業実績

平成 29 年 1 月 8 日に「京都スカウト活動報告会」を京都テルサ大会議室で開催し、61名の参加があった。オーストラリア短期留学派遣、CJK ベンチャープロジェクト派遣、韓国京畿南部連盟からのホームステイ受入について4名から報告があり、本振興会の事業の要ともいえる「国際交流」の実績が参加者の体験談として語られた。

また、スカウトミライプロジェクト（後掲）において、平成 29 年 3 月 19 日にワークショップを主催した。

(4) 国際交流・国際貢献活動、社会に役立つ事業活動、環境・まち美化活動支援のための共催事業

(ア) 国際交流・国際貢献活動支援

ボーイスカウトを対象に海外キャンプへの派遣、国際協力プロジェクトの派遣実施等

オーストラリア短期留学（相互派遣）、姉妹連盟を締結している韓国・京畿南部連盟からのスカウト受入（サマーキャンプおよび1月7日～11日）、CJK ベンチャープロジェクト派遣（国内）を実施し、相互の国際交流を促進した。

(イ) 社会に役立つ事業活動支援

一般青少年を対象にした事業は、スカウト仲間を増やすためにも、各地区・各団で工夫したプログラムが実施され、この一般向けの案内のためにホームページを活用した。

全国都道府県対抗女子駅伝競走大会（1月15日）に670名、全国車いす駅伝競走大会（3月12日）に598名が、走路沿道の自主整理員としてスカウトと指導者が奉仕した。

(ウ) 環境まち美化活動支援

「みどりの募金」活動には、各団が春と秋に奉仕しました。また、京都市「まち美化運動」には、例年「世界の京都・まち美化市民総行動」（11月6日）に80名のスカウトと指導者が参加した。

(5) ボーイスカウト運動の振興及び普及宣伝事業

(ア) ボーイスカウト運動の普及宣伝を効果的に実施する方法を検討するために、NPO 法人グローバル人材開発センターに、大学生の大学生による「ボーイスカウト認知度調査を委託した。平成 28 年 10 月～平成 29 年 2 月の間、京都産業大学 2 回生 4 人が「ミライスカウトプロジェクト」として取り組み、調査・分析の結果を「提言」としてまとめた。

<経過>

12 月 8 日～28 日 アンケートを実施、379 人の回答を得る。

1 月 8 日 「京都スカウト活動報告会」(京都テルサ)にて、中間発表

1 月 18 日 京都産業大学にて、アンケート集計報告

3 月 19 日 ワークショップ「大学生と語るこれからのボーイスカウト」にて「提言」発表。

グループ別討論で、今後の取組について約 150 件の「アイデア」が出された。

これらの成果を今後の事業展開に活かして、ボーイスカウトの認知度を向上させ、加盟員増加へと結びつけたい。

(イ) 地域の不特定多数の青少年に対するボーイスカウト運動の普及宣伝を図る事業として、ホームページを通じて、スカウトの日(ゴミ拾い等の奉仕活動を実施する日)等に地域の青少年の参加を促す。

(ウ) ボーイスカウト・指導者等のボーイスカウト関係者、維持会員、並びに不特定多数の皆様に対して、ホームページを通じて、当法人の事業計画等・京都連盟の事業計画等を適時に適切な範囲でディスクローズし、健全な運営を行う。

(エ) ボーイスカウト運動の振興を図るために維持会員及び潜在的な維持会員に対して、ホームページを通じて、会費の協力を依頼する。

(オ) 事業費実績

主な事業費は、(NPO 法人グローバル人材開発センターに 540 千円、ホームページ運営改革費(389 千円)を支出した。

(6)財源の確保(賛助会費の入金状況)

賛助会費の入金内訳は以下の通りです。

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
賛助会費	2,230 千円	2,310 千円	2,190 千円	2,080 千円	2,450 千円	2,492 千円

当該会計年度は、賛助会費収入が 2,492 千円と前年度比+42 千円となりました。

引き続き、役員の方には、21 世紀を担う青少年の健全な育成の場としてのボーイスカウト運動を、地域社会の方々の認識を高めるのにご尽力をいただき、広く財政的援助を頂戴していただけるように努力して頂き、維持会員数の拡大に一層のご協力をお願いする次第であります。

以上